

新型コロナウイルス感染拡大防止措置に伴う 音楽活動への影響に関するアンケート集計結果

I 新型コロナウイルス感染拡大防止措置対策の経緯

2020年を迎えた直後から新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が世界的な拡がりを見せ、3月11日にはWHO（世界保健機関）がパンデミック（世界的な流行）の状態であるとの認識を示した。日本においても感染が急速に拡大し、2月26日には安倍晋三内閣総理大臣（当時）は、今後2週間のイベント等の中止、延期また規模縮小等の対応を要請した。3月13日には新型コロナウイルス対策特別措置法が可決・成立し、4月7日に安倍総理により緊急事態宣言が埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、大阪府、兵庫県、福岡県の7都道府県に、さらに16日には全国に発出され、5月6日まで不要不急の外出を自粛する要請が行われた。これによりホールや劇場などの施設も使用が制限され、コンサート活動は中止や延期を余儀なくされた。5月25日に緊急事態宣言は解除されたが、イベント等の開催については業種別のガイドラインに基づく感染防止対策の徹底を前提に収容人数が段階的に緩和されていった。9月11日には新型コロナウイルス感染症対策分科会において、歓声や声援を伴わないイベント・公演等の一部収容人数の緩和が容認され、クラシックコンサートでは9月19日から11月末日まで、収容人数5,000人以下の施設では100%の収容率が可能となった※。しかし11月にはいり次第に大都市圏において感染の第三波が起り、12月には全国的な拡がりを見せ、年末から年明けに向けて5人以上の会食や忘年会の自粛が求められた。

※収容率については12月1日のガイドライン改定でも同様の措置が認められ、2021年2月末日まで100%となっていたが、年が明けた1月7日に東京、神奈川、埼玉、千葉の一都三県に、また1月14日には栃木、岐阜、愛知、京都、大阪、兵庫、福岡の二府五県に2月7日までの再度の緊急事態宣言が発出された。

II アンケート主旨

新型コロナウイルス感染症は瞬く間に世界中に拡がり、2020年12月末における感染者数は7,940万人、死者774万人を超えた。日本国内においても感染者数は21万人を突破しており、終息の気配はなかなか見通せない。このような状況下において、音楽家にとって感染防止措置に伴う音楽活動の中止や延期等が自身の生活に及ぼす影響は非常に深刻なものであり、それがほぼ1年の長期にわたるだけでなく2021年以降、即ち世界で開発中のワクチンの接種が本格的に始まるまで極めて厳しい見通しが続くことが予想されており、音楽家の経済的ダメージ、精神的苦痛は計り知れない。しかし一方で、動画配信やオンライン・レッスンなど、今回のコロナ禍において止むを得ず始めた取組が、新たな表現手段として進化しつつあることは大きな収穫といえるであろう。もちろんコロナ禍以前においてもホームページやSNSによる自身の広報活動は最早当たり前となっていたが、配信等への取組が加速化したことは事実である。「演奏年鑑」編集部では、この未知のウイルス感染症がもたらした日本のクラシック音楽家への影響をアンケートによって調査し、「演奏年鑑」に記録として残し、後世に資料として残すことが重要であると考え、コロナ禍における音楽活動のアンケートを実施することとした。

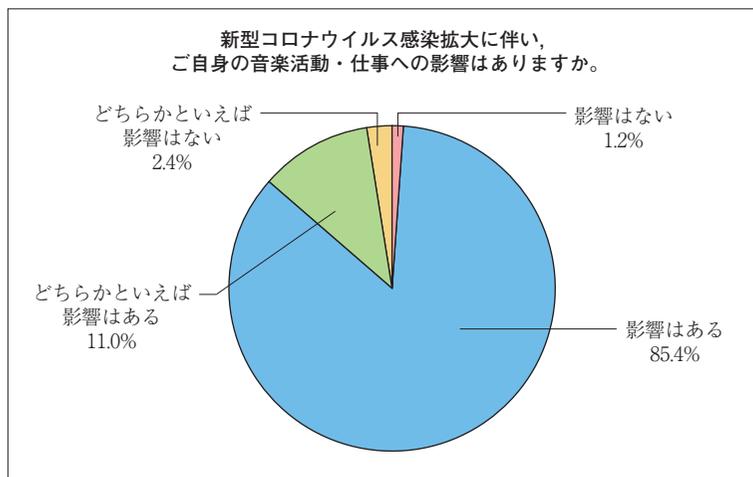
III アンケート実施状況

対象：「演奏年鑑」に掲載されている個人演奏家の方2,889名（作曲家、評論家、事業舞台関係者を除く）に対し、2020年6月から7月にアンケート用紙を送付。回答は1,048名（回答率36.3%）となった。（※新型コロナウイルス感染症の影響が長期間に亘ることが想定されたため、締切を2020年12月1日まで延長したが、回答は6月447名、7月478名、8月54名、9月36名、10月13名、11月20名で、6月から8月の3か月間における回答数が全回答者数の93.4%にあたっているため、アンケートの回答の背景は6月から8月の状況が反映されていることを考慮いただきたい。）

IV アンケート結果

- ・新型コロナウイルス感染拡大に伴い、ご自身の音楽活動・仕事への影響はありますか。

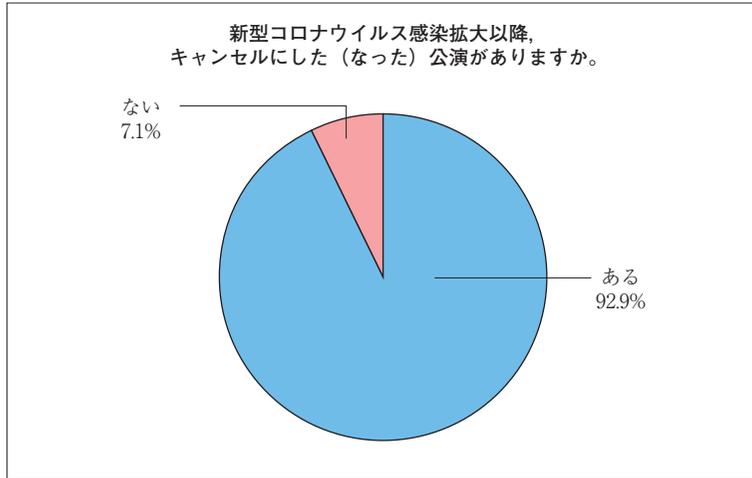
1	影響はある	720名	85.4%
2	どちらかといえば影響はある	93名	11.0%
3	どちらかといえば影響はない	20名	2.4%
4	影響はない	10名	1.2%
	合計	843名	100.0%



I 音楽活動・仕事について

1-Q1 新型コロナウイルス感染拡大以降、キャンセルにした(なった)公演がありますか。

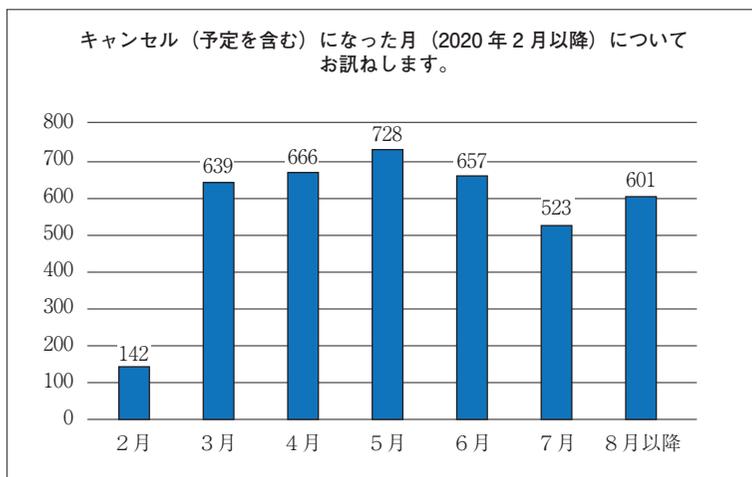
1	ある	932名	92.9%
2	ない	71名	7.1%
	合計	1003名	100.0%



1-Q2 キャンセル(予定を含む)になった月(2020年2月以降)についてお訊ねします。(複数回答可)

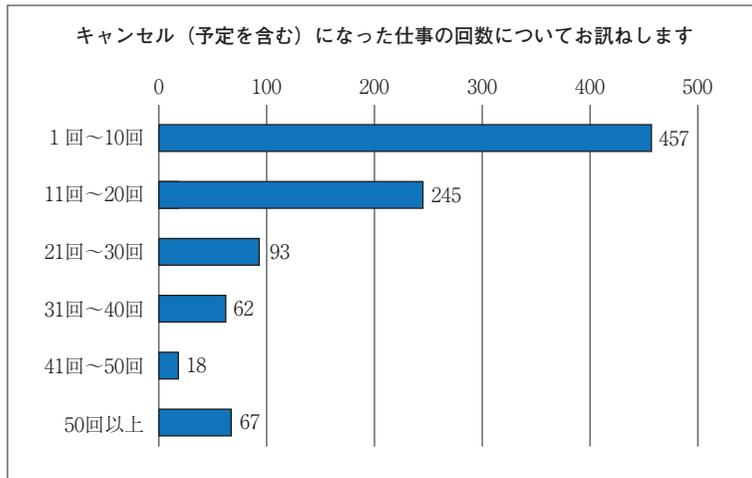
回答者数932名

1	2月	142件
2	3月	639件
3	4月	666件
4	5月	728件
5	6月	657件
6	7月	523件
7	8月以降	601件



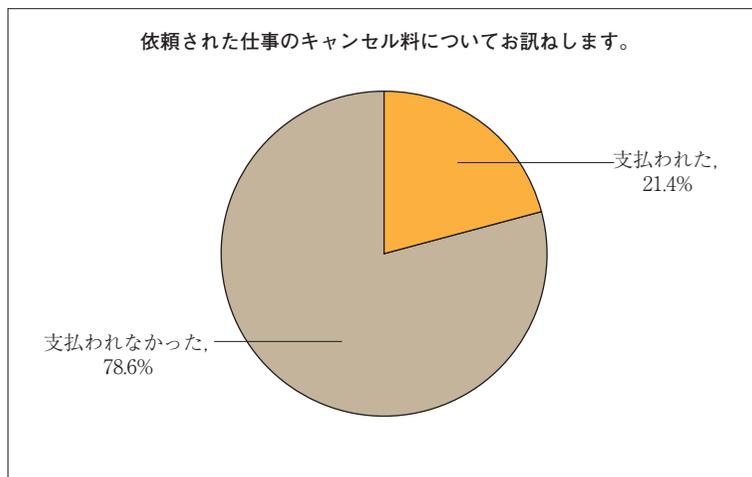
1-Q3 キャンセル（予定を含む）になった仕事の回数についてお訊ねします。

1	1～10回	457名	48.5%
2	11回～20回	245名	26.0%
3	21回～30回	93名	9.9%
4	31回～40回	62名	6.6%
5	41回～50回	18名	1.9%
6	50回以上	67名	7.1%
	合計	942名	100.0%



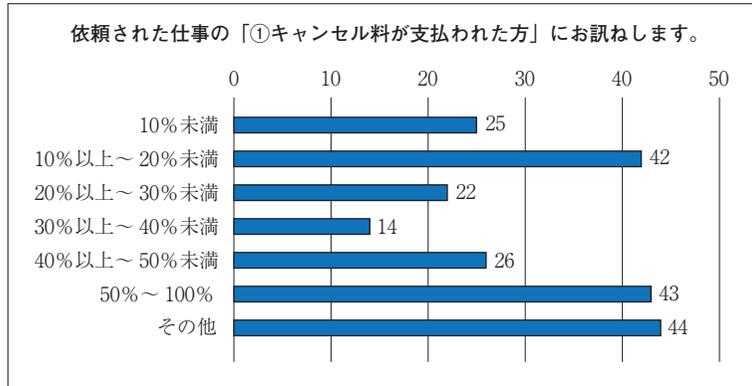
1-Q4 依頼された仕事のキャンセル料についてお訊ねします。

1	支払われた	199名	21.4%
2	支払われなかった	729名	78.6%
	合計	928名	100.0%



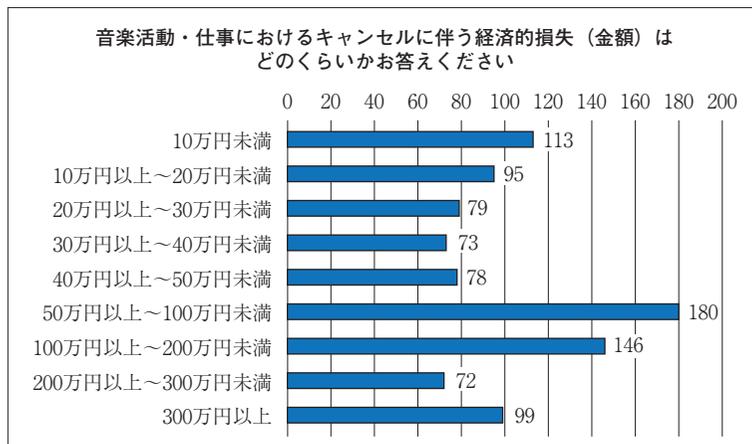
1-Q5 Q4で依頼された仕事の「①キャンセル料が支払われた方」にお訊ねします。
キャンセル料（当初予定の出演料、謝礼に対して）総額でお答えください。

1	10%未満	25名	11.6%
2	10%以上～20%未満	42名	19.4%
3	20%以上～30%未満	22名	10.2%
4	30%以上～40%未満	14名	6.5%
5	40%以上～50%未満	26名	12.0%
6	50%～100%	43名	19.9%
7	その他	44名	20.4%
	合計	216名	100.0%



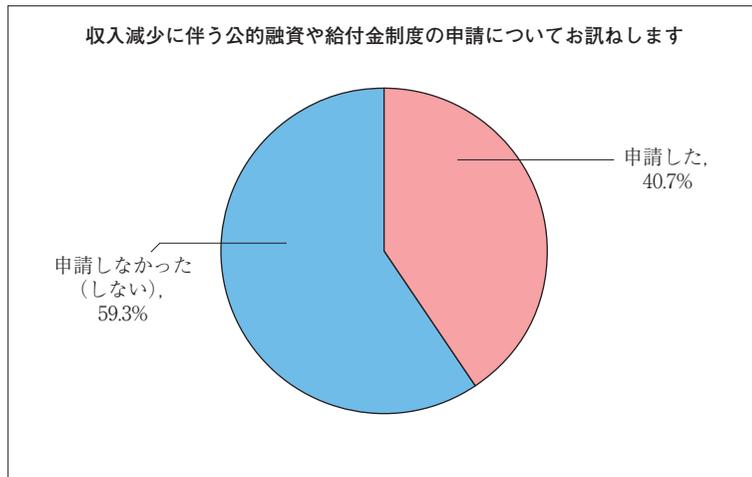
1-Q6 音楽活動・仕事におけるキャンセルに伴う経済的損失（金額）はどのくらいかお答えください。

1	10万円未満	113名	12.1%
2	10万円以上～20万円未満	95名	10.2%
3	20万円以上～30万円未満	79名	8.4%
4	30万円以上～40万円未満	73名	7.8%
5	40万円以上～50万円未満	78名	8.3%
6	50万円以上～100万円未満	180名	19.3%
7	100万円以上～200万円未満	146名	15.6%
8	200万円以上～300万円未満	72名	7.7%
9	300万円以上	99名	10.6%
	合計	935名	100.0%



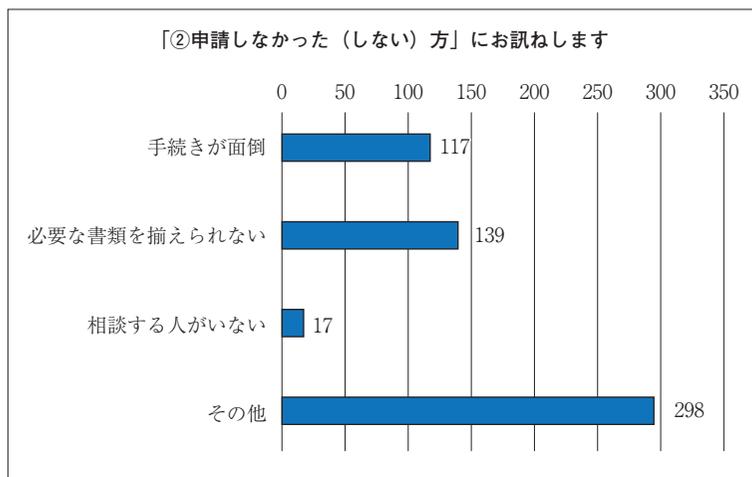
1-Q7 収入減少に伴う公的融資や給付金制度の申請についてお訊ねします。(特別定額給付金を除く)

1	申請した	397名	40.7%
2	申請しなかった(しない)	579名	59.3%
	合計	976名	100.0%



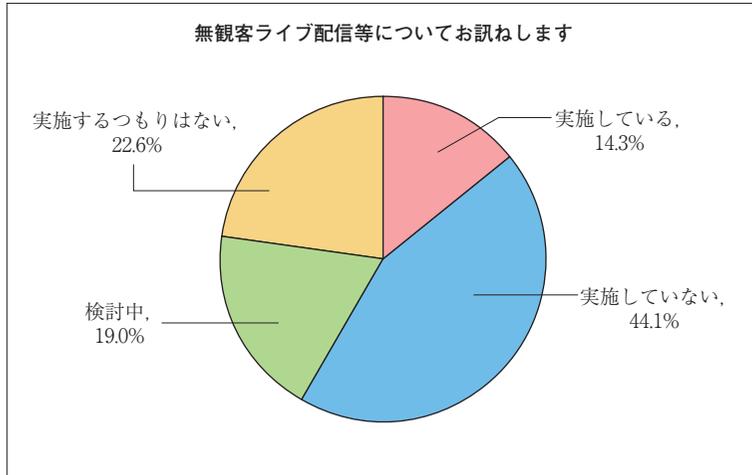
1-Q8 Q7で「②申請しなかった(しない)方」にお訊ねします。

1	手続きが面倒	117名	20.5%
2	必要な書類を揃えられない	139名	24.3%
3	相談する人がいない	17名	3.0%
4	その他	298名	52.2%
	合計	571名	100.0%



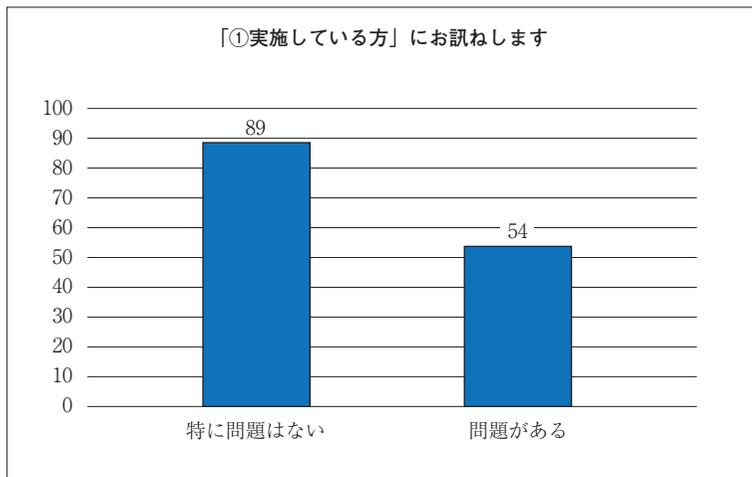
1-Q9 無観客ライブ配信等についてお訊ねします。

1	実施している	139名	14.3%
2	実施していない	430名	44.1%
3	検討中	185名	19.0%
4	実施するつもりはない	220名	22.6%
	合計	974名	100.0%



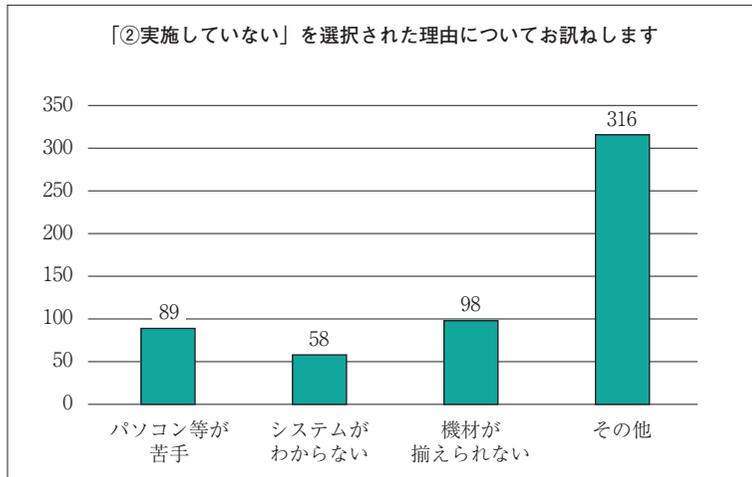
1-Q10 Q9で「①実施している方」にお訊ねします。

1	特に問題はない	89名	62.2%
2	問題がある	54名	37.8%
	合計	143名	100.0%



1-Q11 Q9で「②実施していない」を選択された理由についてお訊ねします。

1	パソコン等が苦手	89名	15.9%
2	システムがわからない	58名	10.3%
3	機材が揃えられない	98名	17.5%
4	その他	316名	56.3%
	合計	561名	100.0%

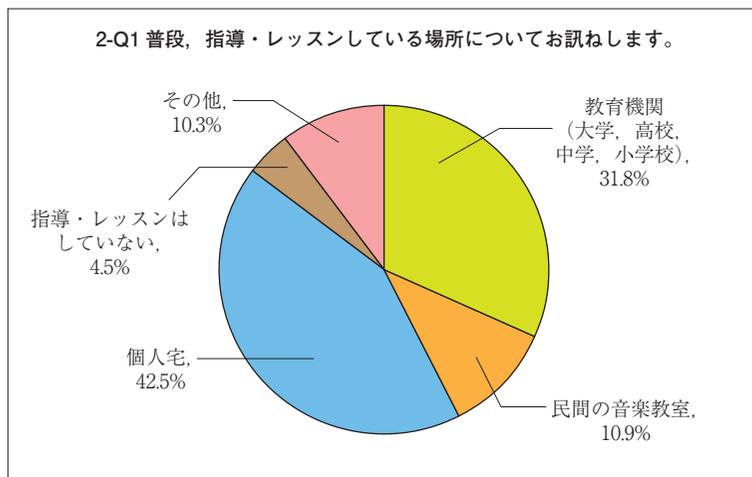


II 指導・レッスンについて

2-Q1 普段、指導・レッスンしている場所についてお訊ねします。(複数回答可)

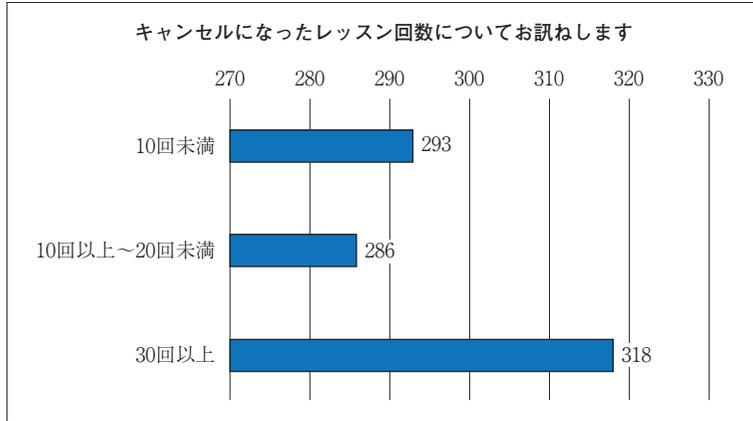
回答者数1,048名 件数

1	教育機関 (大学, 高校, 中学, 小学校)	497件	31.8%
2	民間の音楽教室	171件	10.9%
3	個人宅	664件	42.5%
4	指導・レッスンはしていない	70件	4.5%
5	その他	160件	10.3%
	合計	1562件	100.0%



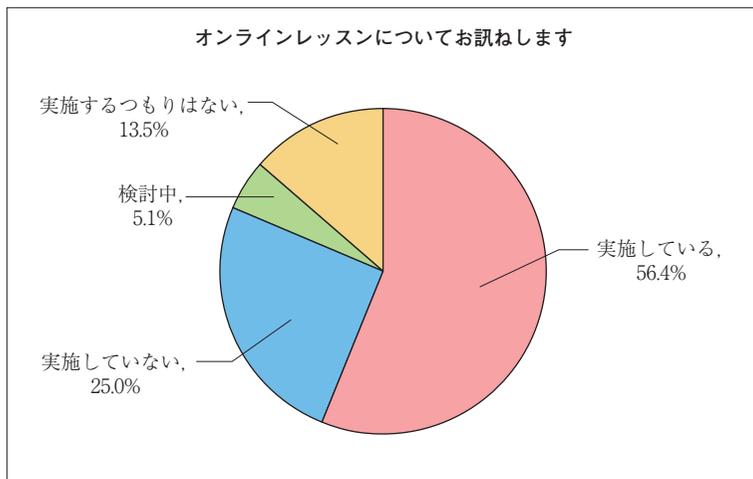
2-Q2 キャンセルになったレッスン回数についてお訊ねします。

1	10回未満	293名	32.7%
2	10回以上～20回未満	286名	31.8%
3	30回以上	318名	35.5%
	合計	897名	100.0%



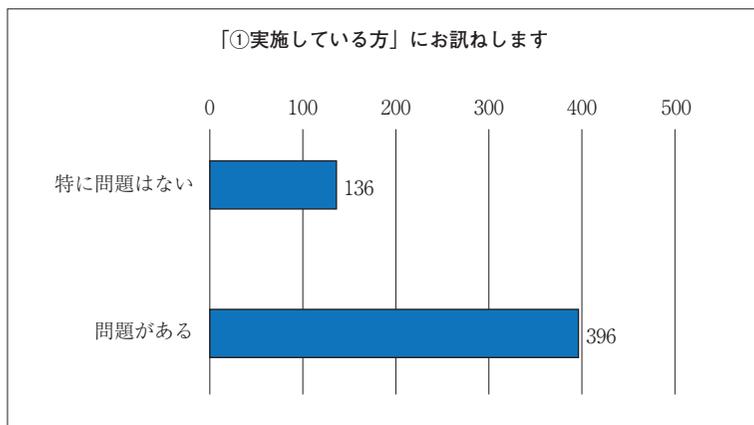
2-Q3 オンラインレッスンについてお訊ねします。

1	実施している	531名	56.4%
2	実施していない	236名	25.0%
3	検討中	48名	5.1%
4	実施するつもりはない	127名	13.5%
	合計	942名	100.0%



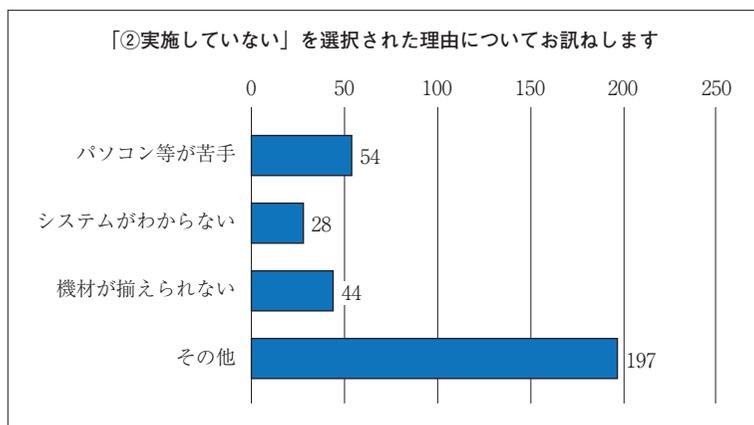
2-Q4 Q3で「①実施している方」にお訊ねします。

1	特に問題はない	136名	25.6%
2	問題がある	396名	74.4%
	合計	532名	100.0%



2-Q5 Q3で「②実施していない」を選択された理由についてお訊ねします。

1	パソコン等が苦手	54名	16.7%
2	システムがわからない	28名	8.7%
3	機材が揃えられない	44名	13.6%
4	その他	197名	61.0%
	合計	323名	100.0%



V アンケート結果について

舞台芸術活動における新型コロナウイルス感染症による影響は2月下旬に一気に全国的に拡大し、4月7日の緊急事態宣言から5月25日の解除まで公営・民間問わず会場やホールは閉鎖され、舞台芸術活動はストップした。その後8月に感染の第二波ともいえる状況があったものの、会場の収容人数が段階的に緩和されていく中で、9月以降は徐々に舞台芸術活動も始まり、音楽シーズンを迎えた11月以降の活動は活発化していくと思われていた矢先、第三波が押し寄せた。舞台芸術関係者は感染防止対策の徹底を前提に公演の在り方を模索し続けてきたが、12月下旬には海外からの新型コロナウイルス変異種による感染も出て、依然として予断を許さない状況が続くものと思われている。

前述のとおりアンケート用紙は6月から7月にかけて発送し、新型コロナウイルス感染拡大による6月時点での問題点をいくつか絞って設問した。

まず1. Q1の公演のキャンセルについては、2月26日に政府によるイベント等の自粛要請がため、3月公演のキャンセルを経験した演奏家は2月に比べて4.5倍に増加、以後4月～7月、また8月以降も同規模でキャンセルは続き、演奏活動は回復していないことが窺われる。Q3のキャンセル回数についてであるが、20回未満が全体の74.6%であるが、50回以上という演奏家も7.1%おり、全回答者1,048名の90%が公演のキャンセルという事態に直面していることがわかる。Q4、Q5は依頼された仕事のキャンセル料についての設問であるが、回答者の78.5%が支払われなかったとしている。またキャンセル料が支払われたという人のうち、キャンセル料が50%未満という人が全体の約60%という回答結果になっている。Q7の収入減少に伴う公的融資や給付金制度の申請についての問いに対して、60%近い方が申請しなかったと回答しており、フリーランスの演奏家にとっては公的融資や給付金制度の申請はハードルが高いものと推測される。Q9の無観客ライブ配信等については、実施していない、実施するつもりはないが合わせて66.8%を占めており、その理由としてパソコン等が苦手、システムがわからない、機材が揃えられないで合計43.7%となり、技術的や経済的な問題から配信等を敬遠していることが窺える。

コロナ下において、大学の授業や指導・実技レッスン等についてもオンライン化が急速に進んだ。講義形式の授業についてはオンラインでの良い点悪い点それぞれマスコミ等でも幅広く議論されているが、ここでは実技レッスンについて設問した。2. Q4でオンラインレッスンについて特に問題はないが25.6%、実施しているものの問題があると回答した方が74.4%となっている。問題と考えられる理由については 通信上の問題、大切なニュアンスや音色が伝わりにくい、アプリ・ソフトが通話用でタイムラグや音質に問題がある、生徒の手元が見えない、音質の問題か姿勢の問題か楽器の問題かわからない、通信環境によるのでわからないことが多い、できることとできないことがはっきりしている、ピアノの音色やペダルは聞き取れない、音を判断できない、音量がわからない、音色がわからない、細かい指導は無理、声楽は伴奏と合わせられない、ハウリングでキャンセルせざるを得ないケースがいくつもある、コミュニケーションがとりにくい、オンラインそのものについて特に問題ない、希望しない生徒に遅れが生じる、実際の奏法についてや身体の使い方のアドバイスが限界あり、音楽的ニュアンスは無理、生徒側がオンラインに対して抵抗があるなど。2. Q5でオンラインレッスンを実施しない理由については、生の音でないと本当のことがわからない、生徒が対面を希望した、そもそもパソコンでレッスンなどできない、PC機材、通信環境をあわせられない、音を出す場所がない人については実施できない、細かいニュアンスがわからないのでお金をとれない、打楽器のため現実的ではない、指揮レッスンはオンラインでは不可能、グループレッスンであること、音色や細部が確認できない、効果をあげられない、オンラインでの歌声が正しく聞き取れ適切な判断によるアドバイスを与えられるかどうか不安だから、教える人には専門家が多いから細部が伝わりにくい、時間差・音量の差、オンラインレッスン向きの楽器ではない、声楽は体を使うことを実体験しなければならぬので言葉では伝えにくい、音質が改善されれば検討、弦楽器はマスク・消毒・換気でレッスンに支障がない（抜粋）。

寄せられた意見は概ね上記の内容に集約される。

なお、コロナ下という状況の中において、フリーランスの立場での国の芸術文化に対する持続的支援を求める声などが多数寄せられた。国としては新型コロナウイルス感染症に伴い影響を受けたフリーランスの音楽家等への支援策として、文化庁令和2年度第2次補正予算で509億円を措置し、「文化芸術活動への継続支援事業」として7月10日から12月11日まで申請を受け付けた。結果、およそ96,300件の申請があり、予算額はほぼ消化された、とのことであった。